

女性ならではの感性は、 研究でも活かすことができる！

堀部典子 崇城大学情報学部情報学科准教授

農業を支える情報技術で 熊本、日本の未来を変えたい

大学2年生の時に『Prolog（プロログ）』という論理型プログラムを使って問題解決をする課題を与えられ、それを夢中でやっているうちに、論理学に興味を持ちました。その後、現・九大総長である有川節夫先生の研究室に所属し、研究の面白さ、難しさ、人とのつながりの大切さ、次世代の学生を育てることの大切さを学び、今に至っています。

現在は、熊本の特色ある環境や栽培方法に付加価値を与え、個人経営の農業を支援するための農業技術情報の蓄積と活用に関する研究・開発を行っています。

農業に“情報技術”を活用するための試みは、多くの組織で始められています。農地に設置されたセンサによる農地環境の監視や、クラウドサーバを利用した情報共有など、いろいろな取組みが存在します。そのなかで私は「日当たりが良い」「水はけが良い」など、個々の農地が持つ環境特性や、特殊な育成手順による特色ある野菜の栽培方法を、農地環境データや農

作業履歴データを分析して解明することにより、農業技術の再現、継承、改善などに役立つ農業技術データベースを構築したいと考えています。「農業を支える情報技術」を目指したこの研究にはたくさんの学生が興味を示しており、その多くは「農業をしている家族、熊本、または日本を支えたい」という崇高な気持ちを持って学んでいます。

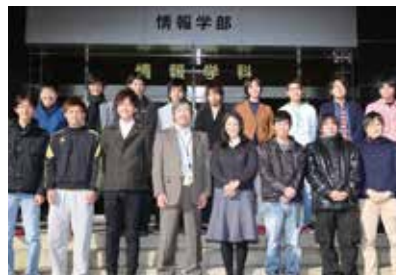
女性だからこそできる研究も！

私には9歳になる娘がいますが、論文締め切りや学生の研究発表準備前は、家庭へ向ける時間が減ります。娘から「お母さんが足りない」と思われられないことを最優先にしながら、締め切りを乗り切っています。また、私自身も娘と接する時間を確保することで体調管理にもつながり、かえって公私のバランスもうまくとれるようになりました。

女性ならではの感性で、女性だからこそできる研究もあると思います。もし「やってみたい」と思ったら、まずはトライを！ 難しそうに思えても、案外うまくいくことも多いんですよ。



学会に参加した際の一枚



青木教授と研究室の学生たちと



Noriko HORIBE

理工学部
修士課程
大学教員

この仕事の
やりがい
それは
とても楽しい！
ことです

One day

6:00 起床
8:30 大学へ
講義・研究指導・論文
会議など
19:00 帰宅
食事・入浴
24:00 就寝

◎座右の銘
一期一会
◎宝もの
家族（夫と9歳の娘）

profile

ほりべのりこ／九州大学大学院総合理工学研究科修士課程を修了した後、論理プログラムや形式言語理論を使った計算学習理論の分野の研究や、大規模データベースの開発、eラーニングシステムの開発等を行う。現在は、熊本の特色ある環境や栽培方法に付加価値を与え、個人経営の農業を支援するための農業技術情報の蓄積と活用に関する研究・開発を行っている。



アンケート
より

育児サポートについて

- 出産や子育てに対して否定的な考えの女性がいるのも事実。意識改革は男女ともに必要
- 育児休暇を取得すればどうしても同僚へ負担をかけることになるので、日頃から周囲への配慮は必要